

皆さん、こんにちは。まめなけ新聞特派員の中村です。今回、朝日町の女の花園、またの名を朝日町の宝塚と呼ばれている(?)農事組合法人食彩あさひに潜入してまいりました。その様子をレポートいたします。

# 朝日町の女の花園

## 食彩あさひ潜入！

【記者：中村】

食彩あさひでは、1月から味噌づくりが始まっています。味噌を作るには、まず米麴を作り、その米麴と煮た大豆を混ぜて作ります。作り方はシンプルですが、微妙な水加減や温度管理を間違えてしまうと、おいしい味噌はできません。この微妙な管理を担っているのが、マダムなみ子とマダム初枝です。二人の絶妙なバランスが、食彩あさひのおいしい味噌を生み出しているのだと確信しました。

大豆を茹でます



米麴と大豆を混ぜます



マダムなみ子



マダム初枝

また、食彩あさひで働くお姉さま方のやる気を支えているのが、美味しいまかないご飯と、大量のおやつです。その量は半端なく、ここで働くとは必ず太ると言われているそうです。ここで約二カ月間研修を受けた私も、類にもれず同じ結果となりましたが・・・



噂のまかない風景！

この冬仕込んだ味噌は、数カ月間ゆっくり熟成され、その後8月末頃には店頭に並ぶ予定です。マダムなみ子とマダム初枝の汗と涙の結晶を、ぜひご賞味下さい。なお、手作り米麴は、すでに**絶賛発売中**です。



花園を  
とまとめる  
マダム弓野

ひな祭りの壁掛けじゃ～



制作期間  
16時間

これは

町で発見

【記者..横山】



制作期間  
2ヶ月

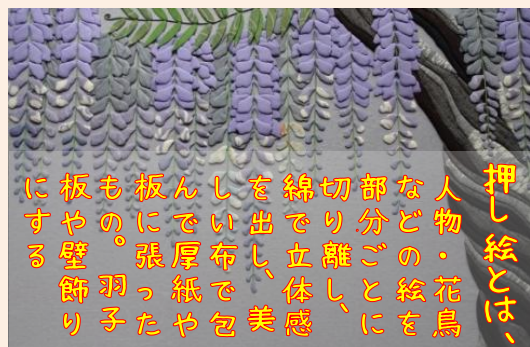


今回は...

【押し絵】

『今度朝日町に手芸を習いに行くんだー』  
富山市の協力隊員にたまたまそんな話を聞いた。『町内に手芸を教えてくれる方がいるんだ?』私は手芸に興味があることと、町外の方から町内の事を知るといふ、少し恥ずかしさみたくないなもので余計に興味を掻き立てられ一緒に習いに行くことにした。  
『これはすごい!』  
朝日町にはこんなすごい才能を持った方がいるんだ...  
そんな出会いをきっかけに朝日町のスゴイ!!を探してきました!と思います。

山崎地区にお住まいの常石かおりさん。8年程前、本屋さんで押し絵の本をたまたま見て、作りたいと思い購入。布と工作が大好きな常石さんはすっかり押し絵作りにハマリ、今までの作品数は100個以上。

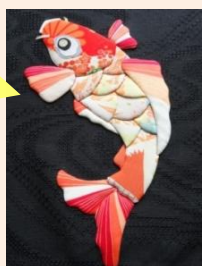


押し絵とは、人物・花鳥などの絵を部分ごとに切り離し、綿で立体感を出し、美しいう布で包んで厚紙や板に張り付けたもの。羽子板や壁飾りする



制作期間  
1ヶ月

朝日町美術展では町長賞を3度、奨励賞を1度受賞。  
今では、故人の遺品の帯や着物を、押し絵やバック・ポーチにリメイクする注文が入るようになってきました。  
『押し絵は工程が多くて大変ですが、完成したらすごくうれしい。目の前で喜んでいただけるととてもやりがいを感じるし、時には手放したくないこともあります(笑)』と話してくれました。  
今回は、好きが高じて生業にまでしてしまっただ町の“スゴイ人”でした。



制作期間  
7時間

制作時間  
10時間



季節に合わせた壁掛け

制作期間  
3時間



制作時間  
3時間

